

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（中部会場）概要

テーマ：地域や様々な機関とのつながりを大切にした図書館運営について

演題：「立誠図書館3年生！ もっとつながる図書館をめざして」

講師：一般財団法人 文まち
常任理事 普照 大督 氏
図書館員 石橋 美樹 氏、栗山 万葉 氏

会場：京都府立図書館 / 見学先：立誠図書館

日時：令和2年12月3日（木）午後1時30分～3時30分 / 見学：午後4時～4時30分

参加者数：19名

概要：

立誠図書館は、京都市内で有数の繁華街、木屋町の高瀬川沿いに建つ元立誠小学校を保全・再生した複合施設内で、令和2年7月21日にリニューアルオープンした図書館である。コロナ禍においても「絵本ライブ」等のイベントを開催するとともに、「Page 3」と銘打った著名なゲストとの対談やレファレンスコーナー等、興味深い内容の機関誌も発行している。

今回の研修は、講演会、ディスカッションの後、会場を移動して自由参加の施設見学を加えた三部構成で開催された。まず、講演会は、歴史ある元立誠小学校が閉校された後に一般社団法人文まちが設立されるまでの経緯を交えて、「もっとつながる」をテーマとして、施設内のホテルとの連携事業や機関誌「Page 3」の作成のコツ、「絵本ライブ」の実施方法などについて、講師3名により順に講演いただいた。

「絵本ライブ」については、夜の町のイメージがある木屋町を、子どもも気軽に訪れる町にしたいという思いから始めたということで、毎回とても盛況とのことであった。

次のディスカッションでは「つながる」をテーマに、初めに参加者から取組事例の発表があった。

中でも、コロナ禍にありながらも、学校連携を再開し、「おはなしキャラバン」を実施している城陽市立図書館の取組事例は、参加者から注目されていた。

また、SNS発信に関しては多くの図書館が取り組んでいる状況が明らかになり、「どのSNSが図書館イベントに対して有効であったか」や、「SNSによって使用する年齢層が違う」等といった意見が交わされた。

講師からは、「イベントのリピーターを増やす工夫を教えて欲しい」という質問に対して「不定期であった行事日程を定期的に変更する」や、「予約制にし、毎月1日に情報を出して予約の受付をしている」、「参加者へ積極的に声をかける」等、実践に基づく具体的な助言があった。

この後、会場を移して自由参加により、立誠図書館を見学した。館内は小規模ながら、洗練され洒落た雰囲気、本の並べ方も美術品の展示のように余裕があった。図書館前に広がる広い芝生も相まって、全体が居心地の良いゆったりとした空間であった。

敷地の四隅には「キッズ」「アート」など、テーマを絞った「かどっこ図書館」が設けられていた。

それぞれはとても小さな空間であるが、部屋ごとに異なるテーマを設定し、そこに厳選した本を置き、内装もそれにふさわしく整えられており、参加者には来館者が施設内を巡って本に出会う楽しみにも触れることができた。

今回は、「つながる」ことを大切にし、様々な工夫をしている立誠図書館の状況を知り、また、実際の運営状況も見聞することができて、参加者にとっては深く興味を引かれるとともに、今後の図書館運営にも活かせるような示唆を得ることができた研修となった。